

第1回 福岡空港滑走路増設事業環境影響評価技術検討委員会
(議事要旨)

日時：平成24年8月27日(月) 13:00～15:00

場所：福岡第二合同庁舎 2階 共用第4～6会議室

出席委員：

せつ たかお
薛 孝夫 (西日本短期大学 特任教授)
たむら こうさく
田村 耕作 (日本野鳥の会 福岡 副代表)
のがみ あつし
野上 敦嗣 (北九州市立大学 国際環境工学部 教授)
まつふじ やすし
松藤 康司 (福岡大学 工学部 教授)
よしひさ
吉久 光一 (名城大学 理工学部 教授)

<敬称略：五十音順>

議事要旨：

1. 委員会の設立について

- ・運営要領(案)が承認された。(平成24年8月27日付けで施行)
- ・委員の互選によって、松藤委員が委員長に選出された。
- ・委員会で委員に配布される資料は、透明性の確保を図る観点から原則公開とする旨、合意された。
- ・委員会の議事録は、意見及び質問、事務局の回答及び対応から構成される要旨とし、HPにて公表する旨、合意された。
- ・なお、種の保存・生息環境の保護等の観点から配慮が必要なものについては、配布資料及び議事要旨ともに委員の合意を得て該当箇所を非公開とする旨、合意された。

2. これまでの検討経緯について

- ・戦略的アセスメントの概念を先取りする形となった福岡空港の平成15年度からの「総合的な調査」における現空港滑走路増設案の選定に至る経緯及び環境面での検討経緯について事務局から説明を行った。
- ・また、本経緯については、環境省へも提出が行われており、同省からのコメントを事務局より紹介した。

3. 環境影響評価法に係る手続きについて

- ・事務局より、環境影響評価法に係る手続きについて説明を行い、内容の了解がなされた。

4. 環境影響評価方法書(案)について

- ・福岡空港滑走路増設事業に係る環境影響評価方法書(案)について、事務局より説明を行い、以下の質疑及び助言がなされ、内容の了解がなされた。

【水質について】

委員：空港内外における現況の微地形を把握し、空港内の地表水が上牟田川、吉塚新川にどの様に流れ込んでいるのかを把握しておいた方がよい。空港内で使用する

る防除雪氷剤の影響の有無をみる水質の調査地点の選定に当たっては、場内の排水系統を踏まえて選定する必要がある。

事務局：空港内の運用や排水経路を把握の上、調査・予測・評価してまいりたい。

現況の排水系統図を方法書に記載する。

委員：水質調査を行う時期として、降雨時の3回、降雪時の1回との記載があるが、それぞれどの程度の降雨量、降雪量の時を想定して実施するのか目安を教えてください。

事務局：降雨時の測定は、3mm/時以上の時を目安に実施したいと考えている。

また、降雪時の測定は、雪が降る日とするのではなく、防除雪氷剤の使用時期ということにさせていただきたい。

委員：河川の現況で、水質基準値を超過している上流側の地点については、関係する市町より情報を収集し、原因の把握に努めること。

事務局：情報を収集してまいりたい。

委員：滑走路増設後の大雨時に、排水経路上に問題が発生しないかの説明を盛り込んだらどうか。

事務局：排水については、空港の整備計画として流量を含めて精査して、予測、評価していく予定。

委員：ゲリラ豪雨のような想定以上の雨量が発生する場合、現在の水路で問題がないか専門家たちと検討し詳細設計を行っていただきたい。

事務局：ご指摘を踏まえ、進めてまいりたい。

【大気質について】

委員：航空機からの排出ガスに含まれるベンゼンを評価項目に加えるか、または加えない場合は、方法書に影響が小さい旨の説明を加えるべきである。

事務局：検討の上、ご相談させていただきたい。

【騒音（航空機騒音）について】

委員：航空機騒音に関し、過去の同一地点での測定結果が年により大きく異なる場合には、その原因を確認しておくことが望ましい。

事務局：原因を確認したい。

委員：航空機騒音の測定は、現行の評価指標であるWECPNLと平成25年4月から採用されるLdenという二つの指標で実施してほしい。

事務局：ご指摘の方向で検討させていただきたい。

【低周波音について】

委員：低周波音を項目追加したことは評価できる。低周波音が問題になっている風力発電所もアセス法改正で法対象事業に追加された背景もある。

低周波音の測定地点は、周辺のバックグラウンドの状況を考慮に入れ、合理的に設定すべきである。

事務局：ご指摘を踏まえ、調査地点を精査してまいりたい。

委員：低周波音の測定は風のない日を選んでほしい。

事務局：マニュアルでもそのように規定されており、ご指摘に沿って測定を実施するようにいたします。

【陸生動物（鳥類）について】

委員：鳥類の調査は、空港という特殊な条件下であることを考慮し、鳥が飛翔する高さについても記録を行うこと。また、定点観察する時間を教えてほしい。

事務局：4つの定点観察地点から、鳥の飛翔高度を確認していく。

調査時間は、バードストライクとの関連を見るために、航空機の運航時間を考慮して設定する。

委員：バードストライクの記録についても把握を行うこと。

事務局：調査では、バードストライクの記録も把握してまいりたい。

【水生動物について】

委員：方法書（案）では、水生動物としては、魚類と底生動物について調査することとなっているが、調査地域である河川に生息する水生昆虫、両生・爬虫類の扱いはどうなるのか。

事務局：調査地域で確認される水生昆虫や両生・爬虫類についても、水生動物の範疇として調査・予測・評価していく予定であるので、その旨、方法書の記載を修正させていただきたい。

【キャッチフレーズについて】

委員：本事業が目指している目標をキャッチフレーズ等にしてアピールしたらどうか。

事務局：民間空港ではキャッチフレーズ等を設定した空港があるかと思うが、国管理空港においては、これらを設定した空港はない。アセスの方法書は環境要素に対する影響要因を加味して、項目の選定や手法の選定を行うものであるので、まずは、環境に係ることをきちんと法令に基づいて調査・予測・評価して、一般の皆様にお知らせしていきたい。その上で、ご指摘のようなものを盛り込めるかについては、検討させていただきたい。

以上